

福知山市避難のあり方検討会第5回検討会の開催結果

1 日 時 令和3年2月18日（木）午後2時～午後4時20分

2 場 所 オンライン開催（事務局：市役所5階全議員協議会室）

3 出席者 京都大学防災研究所 矢守克也 教授（座長）
香川大学創造工学部 竹之内健介 講師（副座長）
自治会長運営委員連絡協議会 谷垣 均 会長
観音寺自主防災会 小滝篤夫 会長
福知山市民生児童委員連盟 関 三千彦 会長
福知山市社会福祉協議会 夜久豊基 会長
福知山民間社会福祉施設連絡協議会 廣田 真 会長
福知山市消防団 池澤 徹 団長
国土交通省近畿地方整備局福知山河川国道事務所 矢野則弘 所長
京都府危機管理部災害対策課 船越理志 課長 ※代理出席
京都府中丹広域振興局地域連携・振興部 能勢重人 部長
京都府中丹西土木事務所 岩崎英徳 所長
京都地方气象台 立神達朗 防災管理官（オブザーバー）
福知山市 伊東尚規 副市長

4 内 容

(1) 第4回検討会の開催結果について **資料1**

- ・第4回検討会のふりかえり

(2) 避難のあり方検討会最終とりまとめ（案）について **資料2**

- ・テーマ1：避難のスイッチとなる情報をどのような形で発信するのか
- ・テーマ2：高齢者や要配慮者に情報をどのように伝えるのか
- ・テーマ3：高齢者等の要配慮者など、住民をどのように誘導するのか
- ・テーマ4：避難先はどうするのか
- ・テーマ5：避難所の受入れ体制・運営の内容はどうするのか
- ・テーマ6：地域の災害リスクを理解し避難行動につなげるための防災教育の推進

(3) 今後の予定について **資料3**

- ・最終とりまとめ公表までのスケジュール

(4) その他

- ・各委員からのご意見等

【委員からの主な意見】

(1) 第4回検討会の開催結果について

○事務局からの報告とする。

(2) 避難のあり方検討会最終とりまとめ(案)について

①テーマ1：避難のスイッチとなる情報をどのような形で発信するのか

○21 ページに関して、由良川堤防建設の進捗具合により内水位への影響が大きく変わってきており、外水位がどのように内水位へ影響するのか、つかみにくいの
が現状である。由良川等の外水位を避難スイッチの選択肢とし設定できる地域も
あれば、困難な地域もある中で、「選択肢の一つとして設定する」と表現したほ
うがよいのではないか。

○地域によって防災意識に温度差がある中で、マイマップ・マイタイムラインの作
成を全域に拡大することは困難ではあるが、自主防災ネットワークとの連携や、
モデル地区での取組みを先事例とし発信すること等、地道なアプローチが有効
ではないか。

②テーマ2：高齢者や要配慮者に情報をどのように伝えるのか

③テーマ3：高齢者等の要配慮者など、住民をどのように誘導するのか

○要配慮者の個別支援計画の作成、避難支援に関して、ケアマネジャーだけでなく、
地域包括支援センターとの連携が必要となる中で、災害時ケアプランの取組みを
全市に拡大していくために、福祉部局との密な連携を是非ともお願いしたい。

○災害時要配慮者の移送については、要配慮者の避難に関して大変重要なポイント
となる。移送のあり方について明確な運用方針を検討していただきたい。

④テーマ4：避難先はどうするのか

⑤テーマ5：避難所の受入れ体制・運営の内容はどうするのか

○指定緊急避難場所、指定避難所の環境整備に関して、避難生活におけるストレス
やエコノミークラス症候群等の対策として、風水害、地震災害、雪害等の災害状
況や暑さ、寒さの季節的特徴により、避難者に対してきめ細かな避難所運営を検
討する必要がある。

⑥テーマ6：地域の災害リスクを理解し避難行動につなげるための防災教育の推進

○74 ページに関して、災害時の地元の浸水状況等を学校に知らせる地域と学校と
の連絡体制を構築する必要がある。

○地域での防災の取組と学校での防災教育との結びつきは前向きに検討いただ
きたい。

○76 ページに関して、行政、地域が保有する災害時の被災写真や資料を市で一括
管理し、普段から治水記念館での展示等活用することで、災害記録の伝承を行っ
ていただきたい。

(3) 今後の予定について

○事務局からの報告とする。

(4) 各委員からのご意見等

(香川大学創造工学部 竹之内副座長)

- ・ポイントは2つあり、行政だけじゃないというところ、そして委員の方々にその地域で活動されている皆さんが参加されていたというところが、やはり今回のあり方検討会の一番よかったところであり、実際に報告書もこれまでの福知山市の経験とか地域の方々の意見がしっかりと詰まったよいものになったと考えている。
- ・これだけ我々も本気になって、そして行政も本気になったということで、次はやはり住民の方々一人一人がどれくらい本気になってもらえるかだと思う。引き続き関わらせていただきながら、ぜひ福知山市の住民の皆さんがしっかりと取り組んでもらえるような形に私も協力していきたい。

(自治会長運営委員連絡協議会 谷垣委員)

- ・避難の受入れについては、局地的な災害であれば、入り切れない場合は他の避難所に誘導できるが、災害が大きくなると非常に難しくなる。そういった場合に、新たに民間を含めた避難所を検討して、管理運営を誰が行うかということも考えていかなければいけない。
- ・自分の生活する場所、地域にどのような自然災害のリスクが隠れているかということも含めて、リスクの正しい理解が進めば、どんな備えが必要なのかなということも必然的に判断できると考えている。そういったことで、今日までいろいろとお聞かせいただいた内容も自治会全体にも広まるような動きをしていきたい。

(観音寺自主防災会 小滝委員)

- ・大江町蓼原で浸水センサーをつけ始めたということや、惇明学区では自動車避難する、そういうマップを作ったこととか、そのほかいろんなことを、各地のやっていることを聞かせていただいて随分勉強になって、私の自主防災会の会長としての仕事に大変役立たせていただいた。
- ・小学校と地域との連絡体制を強化すること、私の地区でも車椅子の生活者が随分増えてきている中で、そういう方は避難するときに車椅子搭載の車でないと逃げられないのだというような深刻な話も聞いて、今後の大きな課題になっている。そういうこともこの検討会で学ばせていただいたことを参考に組み込んでいきたい。

(福知山市民生児童委員連盟 関委員)

- ・民生委員の活動については、発災時もさることながら、平常時における災害に備える活動こそが極めて重要であり、今までから積み重ねてきた民生委員の個別訪問、信頼される民生委員、そういうところがこの発災時にも生きてくるのではないかと考えている。

- ・支援が必要な人を地域の誰がどのように支援するのか、あらかじめ地域で話し合っておくための仕組みが、この検討会で話し合われたことがよかったと思っている。

(福知山市社会福祉協議会 夜久委員)

- ・社会福祉協議会は災害時には災害ボランティアセンターを立ち上げて、ボランティアを募った上で生活復旧支援を行って、一旦落ち着くと、今度は生活再建支援に取り組んでいくという大きな役割がある。今回、検討会の議論を踏まえ、新たに避難所運営ボランティアを派遣するという新しいミッションに取り組めるように検討していきたいと考えている。
- ・今から避難所の運営方針、あるいは避難所運営マニュアル、避難所の受援計画等を作成されるという中で、大変な状況になるが、その健闘に期待している。

(福知山民間社会福祉施設連絡協議会 廣田委員)

- ・今後、避難のためのケアプランというのを一人一人に作成していくことになるので、福祉施設でその人の事前の準備をしながら受入れの形を進めていくということで、これまでの受入れを、受け身ではなくて、積極的に要配慮者の受入れを進めていくことになっていくと思っている。
- ・福祉施設自身の避難確保計画はなかなか思うように進んでいない中、小規模の事業所等もあつたり、福祉という事業所、多々あるので、福知山市と連携しながら、全体に広げていけるよう協力をしていきたい。

(国土交通省近畿地方整備局福知山河川国道事務所 矢野委員)

- ・近年、由良川でも平成16年の洪水とか、25年、26年、29年、30年ということで立て続けにあり、堤防整備を進めているものの、施設規模を上回る洪水は必ず起こり得るということであり、自分の身は自分で守るということを念頭に、今回、避難スイッチとなるような情報から始まり防災教育まで、中身の濃い6項目を検討いただいたということに敬意を表したい。
- ・今回取りまとめられたあり方が福知山市域、市民皆さんに浸透することにより、いざというときにトラブル、混乱がないように、日頃からの訓練も含めて、今後、市と地元自治会、自主防災会とも連携していきたい。

(京都府危機管理部災害対策課 船越委員代理)

- ・学校の教員ないし学校への災害・避難情報の共有という話については、同じ話が福祉のケアプランでも言えるのではないかと考えていて、福祉の専門職においては、福祉分野においては専門家であるものの、なかなか防災については、御承知でない部分があるかと思う。要配慮者の災害時の避難支援にあたっては、例えばハザード情報とかその対処ということも周知していただければと思っている。
- ・今回、あり方検討会で非常に先進的な取組をされているので、京都府としては各市町村に対して、この取組を周知し、できるだけ広げていきたい。また全国的にも先進的だと思うので、全国にも発信して活かしてもらえればと考えている。

(京都府中丹広域振興局地域連携・振興部 能勢委員)

- ・この取りまとめを行うことが目的ではなく、自然災害が発生して、その被害を最小限に止めること、それに役立てることが目的である。そのためには、広範囲で詳細な情報をどのような形でポイントを絞って市民の方々にお知らせするか、行政が何を知っておいて何をすべきか、住民の方は何を知っておいて何をすべきか、そういうことを周知するのが非常に大切であると考えている。
- ・今後とも住民の方々が、常に災害に対する警戒意識を持つことを、例えば今回、ローカルエリアリスク情報、この発信を予定されているが、このセンサーの設置の目的については、もちろん浸水確認のための装置という形にはなるが、一方で日常的にこのセンサーが住民の目に留まることによって、災害に対する日常意識の植え付け、ある意味信号的なものとして大きな価値があると思う。

(京都府中丹西土木事務所 岩崎委員)

- ・土木事務所としては、この検討会を通じて市民の皆様が避難するに当たっての手助け、契機となり得るセンサー類が、つまり水位計や監視カメラについての重要性が、また避難誘導にしっかり使われるよう、欠測や故障のないようにしっかり点検することが我々の責務であると再確認したところである。
- ・こうした熱い動き、運動、ムーブメント、そういった力に添えるような形で、これからも関係機関と歩調を合わせてしっかり情報発信していきたい。

(京都地方気象台 立神オブザーバー)

- ・土砂災害の危険度については、土壌雨量指数という降った雨が土にどれだけ水がたまっているかを表した数値が使われる。今回の土砂災害のローカルエリアリスク情報の運用においては、2時間後に決めた基準以上の雨ならばスイッチを入れることになるが、予想なので外れることもきっとある。もしかして、福知山市でも避難を呼びかけられた際に、雨が予想ほど降らず、災害が起きず、空振りだったと思われることがあるかもしれない。でも、気象台としての経験からも、社会は災害に対する真面目な取組には寛容になっている。被災者が出ないということ想像して、空振りを恐れず、決めた基準になったらためらうことなく、スイッチを入れていただきたい。

(福知山市消防団 池澤委員)

- ・避難のスイッチとなる避難情報とか、地域の特性に応じたローカルエリアリスク情報について、そういったことを事前に周知することで、災害発生時には市からの情報伝達体制の整備とかで早期に住民の避難行動につながるということを願っている。
- ・今後、消防団にタブレットが配備されるが、災害時の気象情報、河川水位情報の収集、福知山市の災害対策本部との情報連携、テレビ会議の実施等、タブレットの活用を通じて福知山市の全域に展開する各分団に的確に伝達できるというメリットがあると考えている。一方で、災害情報の共有の方法やルールを作っていかなければならないという課題も残っているので、消防団としても配備して終わりということではなく、よいモデル検証として取り組んでいきたいと考えている。

(京都大学防災研究所 矢守座長)

- 今回の検討会、特にという点で言うと、やはり福知山市というローカルな、この町だからこそという部分を自治体の側も、それから地域から御参加されている皆さんからも、そして福知山市をバックアップされている立場の関係機関、国や府の方々からも御提示をいただけたのではないかと考えている。
- 福知山市のローカルな特徴に皆さんがちゃんと向き合って、地区独自の学びというものがたくさんあって、それをまた地区間で交換をされたりとか、それからローカルエリアリスク情報に代表されるような福知山市さんオリジナルの取組がこういった形になってきたということなど、まだまだ不十分な点もあるかとは思いますが、ここまでそういった議論ができたことについて、非常にありがたく、うれしく思っている。